

構内における大地震発生後の対応について

2025 年 4 月 17 日
学生生活課

1. 身の安全の確保

揺れを感じたら、姿勢を低く、頭を守って、揺れが収まるまでじっとすることで身の安全を確保するようにしてください。

2. 一次避難について

【青山キャンパス】

屋外避難スペースが限られており事故リスクがあることに加え、すべての建物に耐震補強がなされていることから、在館避難を一次避難の基本とします。指示は非常用放送を通じて行う予定ですが、放送がない場合でもその場に留まり、教職員の指示に従うようにしてください。ただし、室内に損壊等があり、その場に留まることが危険と判断した場合は、建物の外へ速やかに避難するようにしてください。屋外にいた場合は、周囲に危険がないことを確認し、その場に留まるようにしてください。

【相模原キャンパス】

各建物共に耐震補強がなされていますが、屋外避難スペースが確保されているため、グラウンドへの避難を一次避難の基本とします。指示は非常用放送を通じて行う予定ですが、放送がない場合でも教職員の指示に従いグラウンドに避難するようにしてください。屋外にいた場合も同様とします。

3. 二次避難について

【青山・相模原キャンパス共通】

安全性と収容人数を加味し適切と判断された建物を学生専用の二次避難場所として指定し、教職員にて案内誘導を行います。

※案内誘導時には性別等の事情に配慮した振り分けを行います。

※二次避難場所では数日間の滞在が想定されることから、非常食等の配付も行います。

4. 帰宅に関する注意点

【青山・相模原キャンパス共通】

発災後に公共交通機関が運休した場合は、徒歩での帰宅は控え、3日間は大学内に留まるようにしてください。一斉に徒歩帰宅を行うことで道路が過密状態となることが見込まれ、緊急車両への支障や事故リスクが懸念されており、内閣府の帰宅困難者対策ガイドラインでも呼び掛けられています。また、湾岸地区では津波の危険性も考えられます。ただし、事情によりやむを得ず徒歩での帰宅を希望する場合は、案内される所定の手続きを経て、安全に留意し自己の責任のもとで帰宅するようにしてください。

※登下校中に発災して帰宅困難者となった場合の行動目安

①自宅から近く、移動リスクも低い場合 → 帰宅する

②自宅・学院からも遠く、移動リスクも高い場合 → 学外の帰宅困難者受入施設を利用する

③大学から近く、移動リスクも低い場合 → 大学へ戻る

「移動リスクが低い」とは？

目安としては 10km 以内で、移動ルート上に高いリスク(火災・津波等)がなく、日没前までに到着できる見込みがある状況を指す。

5. 大学への安否報告のお願い

発災後は学生ポータルにログインし大学の指示に従って、自身の安否について大学へ報告するようお願いいたします。確認ができない場合、担当職員より電話等にて連絡する旨予めご承知おきください。

6. 大学からの情報発信について

発災に伴う大学からのお知らせ等については、学生ポータルや大学ウェブサイトを通じて情報発信します。通信環境に不具合が生じた場合は、回復次第、発信いたします。

以上